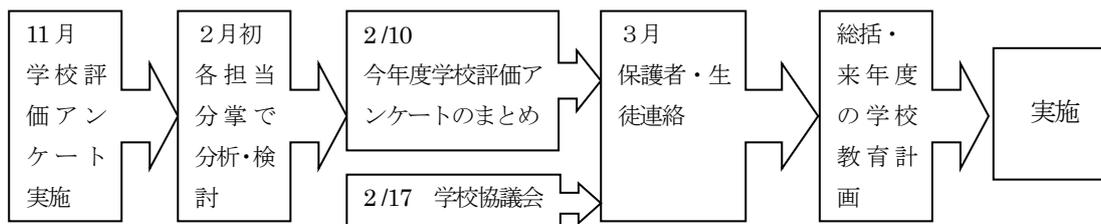


## 平成28年度 学校評価アンケート(学校教育自己診断) 回答のまとめ

### 学校評価アンケート実施スケジュール



### 生徒回答集計

回答数184(提出率55.6%)

A: 肯定的回答(よくあてはまる・ややあてはまる)

前年度比較・・・(肯定的-否定的) 10%↑、20%↑↑  
-10%↓、-20%↓↓

B: 否定的回答(あまりあてはまらない・まったくあてはまらない)

検討・・・コメントを掲載している分掌等

(数値は%)

	設問	A	B	比較	検討した分掌等
1	入学前、本校について十分調べて受験した。	38	62		
2	受験は、自分の意志で決めた。	82	18	↑	
3	学校に行くのは楽しい。	64	36	↑	保・1・家
4	学校のコース選択や単位取得、選択科目、履修などのガイダンスはわかりやすい。	68	32	↑	教・3・4
5	学校の授業は、プリントスライド、映像等の補助教材を使うなどの工夫をしている。	85	15	↑↑	教・情・各教科
6	学校の授業の内容についていける。	74	26		教・各教科
7	学校の授業の説明はわかりやすい。	80	20		教・各教科
8	学校の授業中は、落ち着いて学習できる。	66	34		生・1・各教科
9	ゼロ時間目の授業を知っている。	73	27		教
10	土曜講座を知っている。	62	38	↑↑	教
11	ゼロ時間目の授業を受けてみたいと思う。	27	73		教・情
12	土曜講座を受けてみたいと思う。	23	77		教
13	生徒の興味や関心、進路希望に応じて選べる選択科目がある。	66	34	↑	教・情・各教科
14	学校は、奨学金制度についてきちんと説明している。	77	23		進・3
15	ホームルームなどで、自分の将来について考える機会がある。	73	27		進・2・3・4
16	学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。	83	17	↑	進・2・3・4
17	体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行っている。	80	20	↑↑	3・生・保
18	ホームルーム活動(金4時限目)は必要だと思う。	71	29	↑	1・2・3・4
19	外部(学校外)の講師による講演会は有意義だと思う。	64	36	↑↑	生・2

	設 問	A	B	比較	検討
20	学校生活についての先生の指導については理解できる。	83	17	↑	生・1
21	命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。	77	23	↑	家・人
22	学校内で地震や火災が起こったとき、どのような行動をすればよいかわ知らされている。	82	18	↑↑	保
23	学校の部活動は必要だと思う。	72	28		生
24	担任の先生以外にも職員室、保健室等で気軽に相談することができる先生がいる。	70	30	↑↑	保・2・相
25	教室や体育館などの設備は、学校生活を送りやすいように整備されている。	73	27		保・体
26	教室以外にも学校内に自分の居場所がある。	63	37		保・2
27	自分は、あいさつをするようになった。	77	23	↑	生・1・家

### 保護者回答集計

回答数71 (提出率21.5%)

- A: 肯定的回答(よくあてはまる・ややあてはまる) 前年度比較・・・(肯定的-否定的) 10%↑、20%↑↑  
 -10%↓、-20%↓↓
- B: 否定的回答(あまりあてはまらない・まったくあてはまらない) 検討・・・コメントを掲載している分掌等

(数値は%)

	設 問	A	B	比較	検討
1	入学前、本校について十分調べ受験させた。	70	30		
2	受験は、本人の意志で決めた。	92	8		
3	学校に行くのは楽しいようだ。	76	24		1・2
4	学校は、コース選択や単位取得、選択科目、履修などについてわかりやすく伝えている。	86	14		3・4
5	学校は、単位制としての教育方針をわかりやすく伝えている。	84	16		教・2
6	学校の授業はわかりやすいようだ。	85	15	↑	教・各教科
7	学校の授業中は、落ち着いて学習できるようだ。	77	23		生・1・各教科
8	ゼロ時限目の授業を知っている。	83	17	↑	教・4
9	土曜講座を知っている。	59	41	↑↑	教・4
10	生徒の興味や関心、進路希望に応じて選べる選択科目がある。	78	22	↑↑	教
11	担任その他の教員に相談しやすい。	82	18		保・1・2・4・相
12	学校の様子をホームページ、寝屋定メール、懇談や配布プリントなどによって知ることができる。	80	20	↑↑	保・2・3・4・情
13	学校の授業参観や体育祭、文化祭等に参加してみたい。	63	37	↑↑	生・P
14	学校は、奨学金制度についてきちんと説明している。	80	20		2・3・進
15	学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている。	86	14	↑	進・2・3・4
16	学校の生徒指導の方針は、理解できる。	85	15		生・1
17	学校は命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会を作っている。	69	31		人
18	学校は、災害時の対応や防災や防犯等の生徒の安全確保について伝えている。	77	23	↑↑	保・人
19	保護者同士の交流があったらいいと思う。	32	68		P
20	学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。	87	13		生・1・2・4
21	本校に通学することで日常生活にいい影響を与えているようだ。	77	23		2
22	子どもは、以前と比べるとあいさつをするようになった。	79	21		生・1・各教科

## 評価結果を受けての各分掌等での検討事項

### 教務部

- ・(生4、保5) 肯定的回答増加。合格者・新入生・通信制オリエンテーション等の説明会においてスライドを用いて視覚的に説明した。本校独特のシステムをわかりやすく伝えることを意識した結果である。
- ・(生5、保6) 肯定的回答が増加。ICT機器の活用や視聴覚的教材を取り入れ、わかりやすく工夫された授業が各教科で昨年度以上に多く実施されている。1月に「ICT機器活用研修会(実践事例紹介等)」を実施し、効果的な授業方法についての職員研修会を実施した。今後のさらなる成果に期待したい。
- ・(生9・10・11・12、保8・9) 肯定的回答少数ではあるが増加。ゼロ時限目や土曜講座については、仕事等と両立している生徒は受講が困難であるため、例年通りやむを得ない結果となっている。今年度は新入生に配布する「学校生活のしおり」に案内を載せ、合格者説明会時から案内した結果が、肯定的増加につながったのではと考える。

### 生徒指導部

- ・(生8、保7) 今年度より、携帯指導をスタートし、生徒が授業に集中できる環境づくりに取り組んでいる。授業中に表立って携帯を触る生徒がいなくなり、授業中は落ち着いて学習している。
- ・(生17、保13) 今年度は体育祭を3年振りにグラウンドで行うことができ、明月祭も2日開催を初めての試みとして行ったことにより、生徒の肯定的回答が増えたと推測する。保護者の行事参加率が高まっており、学校での生徒の様子に関心を持って頂いていると感じる。教員の側においても生徒会係が中心となり、色々な意見を取り入れながら準備・運営を行うことができた。
- ・(生20、保16・20) 生徒指導に限らず、担任を中心として保護者に対し連絡を密に取っており、生徒・保護者ともに学校の指導に対し肯定的な回答をして頂いていると感じる。
- ・(生19) 外部講師による講演会では生徒の聴く意識が年々高まっており、そのことが肯定的回答の増加に繋がっていると推測する。
- ・(生23) 部活動においては、生徒の加入率が増加しており、生徒数の減少により予算の面で収入が減っている中でも何とか部活動に対する支出は変えずに行っている。
- ・(生27、保22) 前年から引き続いて、登下校時に正門で教員が積極的に挨拶を行っている。少しずつではあるが挨拶を返してくれる生徒は増えている。次年度以降も続けていきたい。
- ・(教11・13) 日頃から担任、教科担当を中心に教員は生徒の話を聴きながら生徒に寄り添って対応をしている。また、気になる言動、態度があればその都度、生徒に対して声掛けを行っている。
- ・(教15・16) 特別指導の際は必ず担任から保護者に連絡をし、連携・協力しながら指導を行っている。また関係機関とも必要に応じ連携し、生徒指導に生かしている。

### 進路保健部

#### (進路)

- ・(生14・保14) 生徒肯定的回答微増、保護者肯定的回答微減。今年度は保護者向けの奨学金説明会を開催したが、参加者が3名だったので、開催日程や周知方法を再検討する。
- ・(生15) 肯定的回答増減なし。「進路ホームルーム(4回)」や、「進路ガイダンス(2回)」、「進路講演会(3年、4年)」の内容を充実させていきたい。
- ・(生16、保15) 肯定的回答増加。進路決定のために総合的な学習の時間で「就職セミナー(20回)」、放課後や夏季休業等を活用した「就職ゼミ(12回)」「進学ゼミ(3回)」を実施し、進路意識の向上と進路希望確定のために「進路ホームルーム(4回)」「進路ガイダンス(2回)」を実施した結果である。継続して実施していきたい。

#### (保健)

- ・(生3・17・26) 肯定的回答増加。生徒保健委員会を新たに発足した。日々の集団活動の中で、生徒たちから「やりがいがある」「人のためになるのが嬉しい」などの感想をもらったので、充実した学校生活を送ることに貢献していると考え。来年度も委員会活動を通して、仲間意識、コミュニケーション能力、達成感、自尊感情などを育てることを目標に、軌道にのせていきたい。

- ・(保 12) 肯定的回答増加。毎月、保健だよりをホームページに掲載しているが、保健だより以外にも健康管理に役立つ情報を掲載していきたい。
- ・(生 22、保 18) 肯定的回答増加。避難訓練は、火災と大型地震の 2 回実施した。リアルな防災教育としての講演会の実施、避難訓練前の予告、訓練時の担任からの指示・指導などが周知する機会となる。今後は、「伝えること」が最終目的ではなく、今年度完成した防災マニュアルを生徒や保護者にもわかりやすく周知し、行動できる防災教育をさらに進めていきたい。
- ・(生 24、保 11) 肯定的回答増加。保健室には多種多様なニーズのある生徒たちが来室するが、ストレートに相談できる生徒、身体的な症状に潜在している心理的なケアが必要な生徒、信頼関係を築いてからでなければ相談できない生徒がいる。相談場面だけでなく、日ごろの生徒との会話や何気ないやりとりの積み重ねで相談に繋がることが多いため、今後も生徒に寄り添った対応を心がけていきたい。
- ・(生 25) 70%以上の肯定的回答。始業前と放課後に担任が教室整備を行なっている。生徒が使用する全ての教室が同じ整備状況となるように「教室整備マニュアル」を作成した。落ち着いて、気持ちよく授業を受けられるように環境を整備した結果であると考え。また、安全な環境を維持できるよう定期的な安全点検の見直しを行なった。

## 国語科

- ・(生 5) 学校の授業はプリント、スライド、映像等の補助教材も使うなどの工夫をしている。  
(肯定的 H27 72%→H28 85%)
- ・(生 7) 学校の授業の説明はわかりやすい。(肯定的 H27 75%→H28 80%)  
→学校外の研修に積極的に参加し、他校の実践例で本校に活かせるものを教員間で共有しているためだと考えられる。
- ・(生 13) 生徒の興味や関心、進路希望に応じて選べる選択科目がある。  
(肯定的 H27 59%→H28 66%)
- ・(保 10) 生徒の興味や関心、進路希望に応じて選べる選択科目がある。  
(肯定的 H27 59%→H28 78%)  
→本年度より、第 4 学年において新たに国語表現が開講され、自己 PR の方法や敬語等、就職活動や卒業後の社会生活に直結する学習を行った。第 4 学年次に進路や興味関心に合わせて、国語科目の中で現代文が国語表現が選択できるようになった結果だと考えられる。

## 社会科

### 今年度の実施改善状況

- ・(生 6) 社会科では新聞記事、プリントや視聴覚教材などの補助教材を使用し、生徒が関心をもつように改善に取り組んでいる。
- ・今年度から選挙権が 18 歳に引き下げられたことに伴い、選挙権について、実際の選挙を想定して授業を行った。生徒にも好評で、選挙に関する意識を高めることができた。生徒へのアンケート調査では、「自信をもって投票できるか？」の問いに対し、本校生は「はい」の回答で 35%を示した。朝日新聞の同世代の意識調査では 28%であったので、選挙権の授業の成果があった。

### 次年度への課題

- ・選挙権に関する授業では、政治的中立を確保しつつ、現代の諸問題を考えながら、政治や選挙に意識をつなげていくような授業構成を考える。
- ・歴史等の授業では、抽象的な説明に終わらず、教科書の写真や図表を利用して、生徒の関心を高める。

## 数学科

- ・(生 5・6・7、保 6) 数学科では、1 年数学 I で IT 形式の授業を行っている。また、年度末には基本的な計算の復習を行う授業を 10 回ほど行った。例年よりも基本的な計算の定着ができており、その結果が肯定的な意見の増加につながっている。また、ICT を使った授業を行っていることも、1 つの要因であると考えている。

## 理科

・(生 5・6・7、保 6) 板書計画や配布プリントの工夫、また I C T機器を活用することで授業内容の理解が深まっていると考える。更に今後も改善を重ね、授業理解の促進・考査の点数増加へと繋げていきたい。  
また、忘れ物(ノートや教科書、筆記用具)を確認することで、持ち物の大切さや授業内容の理解に差が出ることを伝えている。

## 保健体育科

・(生 5・7、保 6・7) 体育科でも座学を中心に I C T機器を活用し授業を行っている。また、板書の際に生徒が一目見てわかるような視覚支援の工夫がなされている。また、実技では見本を見せるなどをし、わかりやすい説明を心掛けている。  
・(生 8) 実技においては、見学者の見学場所を固定することを導入したことによって、見学中の私語や携帯電話等の使用の注意を細かく行うことができた。座学においては、携帯指導を含め、必要のない私語等の注意もその都度行った。  
・(生 25) 運動施設や設備は全日制と共有しており、使い方等を全日制と話し合い、生徒が使いやすいように工夫していかなければならない。更衣室においては始業前と放課後に体育科を中心として清掃等を行ってきたい。

## 芸術科

・(生 5・6・7・8) 授業について肯定的な回答が増加した。日頃から授業展開や教材を工夫してきた結果である。

## 英語科

・(生 6・7・13) 生徒の理解度を常に考慮し、内容や進度を設定している。だからといって容易なものばかりを提示しているわけでは決してなく、特に 1, 2 年生は、コミュニケーションの道具としての言語教育に資するように授業を行っている。選択科目に置いては、教科書が無いため、すべて手作りの教材となっており、毎時間の教材の作成に本当に時間がかかるが、なんとかできていると思う。

## 家庭科

・(生 3・5・6・7) 肯定的回答増加。I C Tや実物を使った授業を心がけ、できるだけ参加型の授業を行った結果であると考えられる。  
・(生 8・27、保 7・22) 肯定的回答増加。授業の開始と終わりの挨拶の徹底や、授業中携帯電話の使用に関するルールの徹底の結果であると考えられる。  
・(生 21・24) 肯定的回答増加。命の大切さや人権について授業中に扱うことが多く、その結果であると考えられる。また、妊娠や出産についての授業等もあり、生徒が相談しやすい様子があった。

## 情報科

・(生 5) 肯定的回答増加。実習、座学ともに様々な教材を使用し、最新の情報を授業に取り入れている。  
・(生 6,7) 肯定的回答微増。ほとんどの実習を 2 回で 1 つのテーマがこなせる構成にしており、全体説明を複数回行った後、個別指導に力を入れるようにしている。

## 第 1 学年

・(生 3、保 3) 「生徒間のコミュニケーションを増やし、楽しく充実した学校生活につなげる」という目的のもと、今年度の第一学年の新たな取り組みとして、全三回の学年レクリエーションを行った。生徒からも「楽しい」、「またやりたい」等の声もあがっており、その結果が肯定的な意見の増加につながっている。  
・(生 8、保 7) 落ち着いて学習できる環境を整えるため、第一学年では一年間を通して、教室への入り込み指導を行っている。  
・(生 18) 第一学年では年度初めに年間の HR 計画を立てている。しかし、HR の中には予定が空いているものも多く、HR を充実したものにできなかったと感じている。肯定的な回答の増加にはつながっているが、満足することなく、充実した HR を行うことができるよう工夫し、取り組んでいきたい。

- ・(生 20・27、保 22)「生徒に寄り添い、一人でも多くの生徒を進級させる」ということを、第一学年では目標にしている。教員が生徒に寄り添い丁寧に指導を続けていることが生徒への信頼につながり、生 20、生 27 だけでなく、さまざまな結果に出ていると考えている。
- ・(保 11・16・20) 入学した際に、不安な気持ちを持っているのは生徒だけでなく保護者も同じだと感じている。そうした中で、入学当初から家庭連絡を細かく行うことにより、保護者の学校・教員への信頼につながり、多数の肯定的な意見につながっている。

## 第2学年

- ・(生 15) 進路HRにおいて外部から講師を招き、今からできる進路実現へ向けた準備について計3回講演を行っていただいた。生徒の反応も良く、自分の進路を真剣に考え始める生徒が増えたように思う。今後も進路保健部と連携し、こういった機会を増やしていきたい。
- ・(生 16・19、保 15) HRを通して、特に通信制選択者に対してオープンキャンパスや学校説明会の案内をし、進路がある程度決まってきた生徒には積極的に参加するよう指導した。また、企業の方を招いた進路HRを年3回行い、進路実現に向けて今すぐできることや、これからしなければならないことなど、生徒の実情に合った話をして頂いた。
- ・(生 18) ホームルームでの内容をできるだけ生徒にとって価値のあるものになるよう、学年会等で話し合っている。今後も「HRは出席したほうが良い」と生徒が思い、こちらからの呼び掛けだけでなく、自主的・積極的に出席させられるよう工夫していきたい。
- ・(生 24・26) 年度当初より、2学年は自分のクラスの生徒だけでなく、学年団全員で2学年の生徒全員の指導をしていくという方針を立てていた。生徒によっては担任以外の教員の方が話しやすいという者もあり、困り感のある生徒がいた時は、その場に居る教員が対応し、そこからクラス担任と連携することで学年全体で生徒の指導・フォローに当たってきた。
- ・(保 3) クラス内だけでなく、学年全体で生徒同士のコミュニケーションを取り、1人でも多くの友人を作ることができるよう、学年で年間2回のレクレーションを行った。レクレーションの内容は、時間短縮などもう少し検討する必要があるが、積極的に参加してくれた生徒の中には、クラスを超えて交流を深める生徒もあり、少なからず効果はあったように思う。
- ・(保 11・12・20) 2学年の保護者は懇談の参加率が高く懇談や保護者連絡を通して家庭と連携を行っている。しかし、長期欠席者への家庭連絡などをより積極的に行っていき、より保護者と連携して生徒の指導に当たっていかねばならない。
- ・(保 14) HRにおいて奨学金に関する資料を生徒・保護者に向け配布している。
- ・(保 21) 学年のレクレーション等を通して、クラス内だけでなくクラスを超えた交流ができるようになってきた一方、仲良くなった者同士と一緒に授業をサボったり、放課後遅い時間まで遊んだりしていることが報告されている。生徒同士で交流を深めることは良いことであるが、お互いに良い意味で引っ張り合える関係を築けるよう指導していかねばならない。

## 第3学年

- ・(生 15・17・18) ホームルームや行事の大切さを、休みがちな生徒に伝えていくのが課題である。
- ・(生 14・15・16、保 14・15) 卒業する生徒が、進学または就職のいずれかに進めるよう、進路指導や情報提供に努めたい。

## 第4学年

- ・(生、保 4・8・9) 個人懇談や保護者懇談を通して、生徒や保護者に卒業要件となる単位修得や履修について丁寧に説明を行った結果だと感じている。
- ・(保 12) 肯定的回答が増えている。年間5回、保護者向けの学年便りの発行とホームページへの掲載を行った。ホームページを見て頂くための工夫をどのようにしていくかが今後の課題である。
- ・(保 20) 肯定的な意見が増えている。年2回の保護者懇談だけでなく、進学や就職、卒業指導の際には保護

者連絡を行い、できる限り学校の情報を伝えるようにした。

- ・(生 15) 進路部と連携して進路HRを充実させた結果であると考えている。
- ・(保 15) 第4学年では就職希望の生徒が多い。生徒の興味・関心がある企業については積極的に職場見学を教員付き添いのも実施した。その結果、肯定的回答が上がっている。

### **PTA 定時制委員会**

#### **今年度の実施改善状況**

- ・(保 13) 学校行事への参加希望の割合が平成 27 年度の 49%から 63%に大幅に増えた。実際の参加人数も、体育祭への保護者参加数が人から 27 年度の 73 人から 85 人へ、明月祭が 27 年度の 136 人から 141 人へと大幅に増えた。生徒が楽しく活動している様子が保護者に伝わり、保護者の関心が学校に向き始めた。
- ・(保 19) 「保護者同士の交流」を望む割合が毎年低い。今後も保護者同士の交流を深めるために、子育ての悩みなど話し合う保護者支援の講演会の企画を進めたい。
- ・体育祭用品の充実、明月祭の調理器具の整備に努め、充実した行事内容になるように、PTA もできる限りの支援をした。
- ・生徒の命と安全を守るため、非常食、水等の防災用品を毎年少しずつ備蓄している。今後も備蓄を進めていきたい。

#### **次年度への課題**

- ・学校行事への参加者を今後も増やし、保護者の関心を学校に向ける。
- ・保護者同士の交流を深めるため、保護者支援の講演会を企画する。
- ・生徒の命を守り、安全を確保するために、非常食、水等の防災用品の備蓄を進める。

### **人権教育推進委員会**

・(保 17) 昨年度を 1 パーセント下回る 69%であり、決して高い評価ではない。この結果は事実として受け止めなければならないが、保護者がこの点について、学校の取り組みをどの程度認知しているのかを検証する必要がある。例えば「学校として行っている取り組み」を、保護者が知らないのであれば、取り組みそのものを深めるよりも通知・宣伝に力を入れる必要がある。

- ・(生 21) 昨年度 67%から 10%増の 77%となった。人権HRや人権講演会での成果の現れである。

### **教育相談委員会**

・(生 24、保護者 11) 生徒 24 について、前年度 58%から 70%に増加。担任クラスの生徒である無しに係わらず、共感を基本とする日頃からの生徒への接し方の成果である。生徒に対して（一方的に）きつい言い方をする教員は皆無である。

### **情報処理委員会**

・(生 5) ICT機器を活用した授業を実施する教員が増えてきている。そのため、情報機器の管理を行い、授業での活用方法については、個人別や教科別にガイダンスを行っている。

・(生 5) ICT機器活用のための教職員向け校内研修会を 1 月に実施した。本校での ICT活用事例を教員全体に共有することができた。

・(生 5) 今年度はタブレット型 PC1 台、プロジェクタ 2 台、情報機器管理棚を購入することができ、授業等で有効に活用されている。今後も ICT機器の増備に努めていきたい。

- ・(保 12) 本校HPの更新を適宜行い、内容を充実させることができた。今後もHPによる情報発信を充実させる。